

第5回滋賀県施設合同企画展

ing・・・障害のある人の進行形

本展は、滋賀県内の障害のある人が作った作品を、造形活動を担当している施設職員が実行委員会を組織し、合同で企画・展示を行うものであり、今展で5回目となります。

障害のある人たちが作品を生み出す、まさにその瞬間を見つめてきた職員だからこそできる展示を考えてきました。日々の生活の中で、何を感じ制作したのか、その作品を通じて何を発信したいと考えたのか。作品の制作されたその背景までにも目を凝らし、耳を傾けてきました。

今回初めての試みとして、会場を3カ所に増やしての展示を行います。ボーダレス・アートミュージアムNO・MAの他、近隣の食堂であります初雪食堂、複合店舗 尾賀商店をお借りし、より一人一人の作品が生かされる場を求め、会場の持つ力と合わせて提案できればと考えています。

日々生活の中で生まれ続ける作品の数々を、より多くの皆様にご観覧いただき、障害のある人の造形活動の一端を知っていただく機会となればと願います。

● 開催期間

2008年12月14日(日)～2009年1月18日(日)

・ ボーダレス・アートミュージアムNO・MA

10時から17時開館 / 月曜休館 / 12月29日(日)～1月5日(月)休館

・ 尾賀商店

11時から18時開館 / 火曜・水曜休館 / 12月29日(日)～1月7日(水)休館

・ 初雪食堂

11時から18時開店 / 1月1日(木・祝)～1月5日(月)閉店

● 観覧料

一般 第①会場 NO-MA 200円 大学生・高校生 150円 中学生以下 無
料

第②会場初雪食堂 と 第③会場尾賀商店は観覧料無料

(NO-MA の規定により、減免及び団体割引の適用あり)

● 出展施設

近江学園 おおぎの里 唐崎やよい作業所 きぬがさ作業所 湖北まこも

さくらはうす 障害者支援事業所いきいき 信楽青年寮

社会就労センターあおぞら 社会就労センターこだま ステップ広場ガル

はーとふるカンパニー 八身ワークキャンパス バンバン 彦根学園 藤美寮

蛭の里 もみじ寮・あざみ寮 やまなみ工房 やまびこ作業所

50音順 計 21 施設

① ボーダレス・アートミュージアムNO-MA 永原町上16

② 初雪食堂 永原町中17

第5回滋賀県施設合同企画展 ing...障害のある人の進行形
第2・3会場案内地図



②古くから親しまれる初雪食堂



● 会場

● 主催

滋賀県施設合同企画展実行委員会

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA (社会福祉法人 滋賀県社会福祉事業団)

● 関連イベント

【オープニングコンサート&ふれあいトーク】

開催日時 : 2008年 12月 14日(日)

13:00 ~ 17:00

開催場所 : ボーダレス・アートミュージアムN

③様々な作家が集まる尾賀商店



○ - MA / 尾賀商店

参加費 : 無料

プログラム : 前半 13:00 ~ バンド演奏

後半 15:00 ~ 17:00 出展者を交えてのフリートーク

● お問い合わせ

以上、今展についてご紹介いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせは下記までお願い致します。

ポータルレス・アートミュージアム NO-MA 担当 : 西原祐子、井上多枝子

〒523-0849 滋賀県近江八幡市永原上16 Tel/Fax 0748-36-5018

E-mail : no-ma@lake.ocn.ne.jp HP : <http://www.no-ma.jp/>

● 出展作家紹介

山本 光浩 Yamamoto Mitsuhiro 絵
1964年生 (社会就労センターこだま)

鳥の絵の始まり…英語の S の反対を書いたのを見てみると鳥に似てるなと思い、鳥の絵にしてみました。基本的には鳥にしても魚にしても枠をかたどってから中に三角、丸、四角、ラインとかを加えていきます。そして、周りにバランス良く模様を配置していきます。後はカラフルな色をどんどんぬっていけば出来上がりです。誰でも簡単に描けると思います。こんな単純な絵ですが私は好きです。作業所の絵画クラブでも絵は描いていますが、家で晩酌をしている時、ほろ酔い気分で描くのが一番です。絵を描いているときは時間が経つのが早く、楽しい時間です。これからもっともっと色々な絵を描きたいと思っています。



(本人談)

彼は20代後半から、有名な画家の模写を始め、徐々に自分の画風を確立してきた。目の前に見える模様から連想し、想像する。モノを形づくるおもしろさに、はまりこんでいった。

今回の作品も<迷路みたいなもの>を通して表現する不安と快感・・・をあたかも楽しんでいるようだ。<鳥や魚>も無機質な図形をあてどなく積み重ね、完成形がどこへいくのかわからないまま、彷徨っている。できあがったものは、あたかも彼の分身のようだ。

(担当職員筆)

崎元 由美子 **Sakimoto Yumiko** 陶

1980年生 (社会就労センターあおぞら)

「この手の型おもしろいな！」彼女の中で何かが閃いた瞬間である。

それをきっかけに次々と浮かんでくるイメージ。「指をちょっと曲げてみようかな?」、「一番上はたくさん付けて炎みたいにしても。」という具合に、それらのイメージはどんどん形になっていく。楽しそうな表情の彼女から“生みの苦しみ”は感じられない。

(担当職員筆)



瀬古美鈴 **Seko misuzu** 刺繍

1981年生 (やまなみ工房)

1999年にやまなみ工房へ入所する。入所当時から、形にこだわらない自由な



スタイルで糸の束から一本の糸を抜きだし、数センチあるいは、2、3 針縫っては糸を交換する。布と糸が重なり合い、絡み合って生み出された作品は、独特の世界を創り出している。

(担当職員筆)

中川多喜雄 Nakagawa takio 陶

1949年生 (もみじ寮・あざみ寮)

普段から多くのことに好奇心や興味をもっている彼の目に2001年9月11日。アメリカ同時多発テロ…。その燦々たる様子がTVを通して彼の心にやきついた…。

その翌日から粘土をブロック状にしてどんどん積み上げていった。そして彼がこれまで作ったことのない大きさの作品である2つのビルが生み出された。『ワールドトレードセンタービル』その力強い作品は見るものの目を一瞬にして惹きつける。大きな作品に込められた彼の願いを感じてみては…。

(担当職員筆)

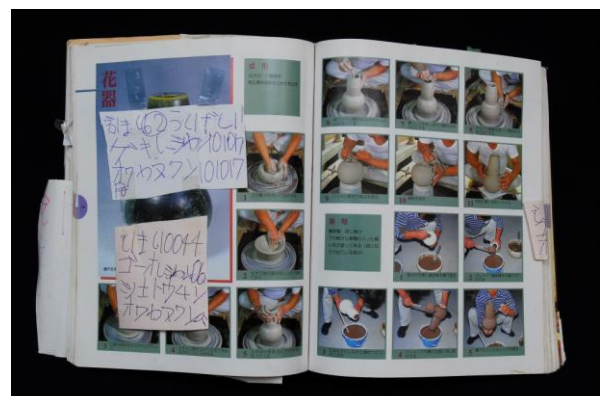


奥川有記 Okukawa yuki 貼り紙

1978年生

(社会就労センターあおぞら)

たくさんの手書きのメモが貼られている陶芸の本。それは有記さんが陶芸に取り組むときには必ずかたわらに置かれている。本を見ながら



イメージを膨らませ、そこに自分のアレンジを加えて出来上がっていく作品の数々。長い
間使い続

けてきたこの本は、有記さんの相棒のよ
うな存在であり、想いのつまったまさし
く作業日誌である。 (担当職員筆)

和田利人 Wada Toshihito 絵・陶

1947年生

(信楽青年寮)

長年、施設内の作業部屋で、動物や人間、車な
どをモチーフに陶芸や、絵画を制作している。
制作活動は日々飽くことなく続けられ、一、二
週間で畳二畳分程の作業部屋は数十体もの粘
土作品で埋め尽くされる。今回の出展作品はそ
の膨大な作品の中、陶芸でも絵画でもよくモチ
ーフとして選ぶ人間の裸体シリーズである。
(担当職員筆)

